キリストにあって、スポーツも礼拝です！

ATHLETE CHURCH AC

アスリートチャーチ NEWS LETTER

Vol. 33

2026 September

韓国・大邱(テグ)世界マスターズ陸上2026

走り幅跳びは4位、100mと200m(M40)は準決勝までででした。2ヶ月前に肉離れをして以来、足に違和感が残り、怖さもあって全力で走れないもどかしさがありました。足の痛みを感じながらの大会となりましたが、最後まで思いっきり楽しめたことに感謝しています！今回のチャレンジに向けて、1年前から体を作り直し、試行錯誤を重ねてきました。以前、あるオリンピアンからこんな言葉をいただきました。「やりたい、やりたいと言ってるだけじゃ何も起こらないだろ。まずは、やるんだよ。」この言葉が、ずっと心に残っています。結果がどうだったかも大切ですが、まず一歩踏み出して、挑戦してみる。その過程で経験したこと、失敗したこと、できたことの一つひとつが、必ず次につながっていく。それは、宣教にも通じることだと感じています。「自分にできることをやる」のではなく、目の前の現実を見たときに、「自分にはできない」と思うことにも一歩踏み出してチャレンジする。その一歩の先に、神様が働いてくださる。今回の大会を通して、改めてそんなことを感じました。何より嬉しかったのは、仲間との再会、そしてたくさんの新しい出会い。同じ舞台で、陸上好きの仲間と一緒に走れる喜びを心から感謝します！皆さんの応援とお祈り、心から感謝します！　Run For His Glory







韓国ミッショントリップ

―スポーツを通して出会い、関係を築き、共に仕える―

2026年6月23日～7月14日

1. 韓国ミッショントリップを終えて

今回、約3週間にわたり韓国を訪問し、仁川、河南、釜山、ソウルなどで、教会やスポーツミニストリー、アスリート、指導者、トレーナー、子どもたちなど、多くの方々と出会う機会が与えられました。フィジカルトレーニング、健康体操、礼拝、メッセージ、交わりなど、さまざまな形でスポーツを通した宣教に携わることができました。今回の訪問を通して改めて感じたのは、スポーツは人と人、教会と教会、そして日本と韓国をつなぐ大きな架け橋になるということです。また、これまでの出会いが一度きりで終わるのではなく、再会し、祈り合い、励まし合いながら、共に神様の働きに仕える関係へと育てられていることにも大きな恵みを感じました。

2. 仁川ジュニア・ユースサッカーセンター　この一人を喜び、その成長に仕える



仁川ジュニア・ユースサッカーセンターでは、中学2・3年生約20名を対象に、フィジカル＆モビリティレッスンを行いました。深呼吸から始まり、コアトレーニング、陸上ドリルなど、約1時間半にわたって身体の動きや仕組みについて学びました。最初は戸惑いを見せる子どもたちもいましたが、一人ひとりの存在を応援しながら、自己認識、自己評価、自己承認について伝えました。また、福音の真理をスポーツや日常の言葉で分かりやすく語りながら、一人ひとりが神様によって造られた、ユニークで多様な、かけがえのない存在であることを伝える時間となりました。私は種を蒔き、水を注ぐところまではできます。しかし、その後の成長は神様の御手の中にあります。レッスンの最後には、子どもたちの表情が大きく変わり、笑顔があふれていました。人数や結果ではなく、「この一人」の存在を喜び、その人に仕える。その大切さを改めて教えられました。



3. ビブリカル・パーソナルトレーニング
「霊と魂と体をもって主にささげる」



仁川では、友人であるパク牧師の息子・ナヌムくんと、マンツーマンでビブリカル・パーソナルトレーニングを行いました。身体のケアや動きづくり、コーチングを行いながら、自然な形で御言葉を分かち合うことができました。ローマ人への手紙12章1節を共に宣言し、「霊と魂と体をもって主にささげる礼拝」を実践する時間となりました。祈りで始まり、祈りで終えられたことも大きな感謝でした。レッスン後は韓国料理を囲みながら交わり、「食卓を囲むこと」そのものが関係を築く大切なミニストリーであることを改めて実感しました。



4. ハナム・ホームスクールネットワーク
家族で身体を動かし、共に神様を覚える





河南では、スポーツミニストリーを通して宣教をしながらホームスクールで子育てをされているSeo宣教師に招いていただき、ホームスクールファミリーの体育の授業で奉仕しました。参加者全員がクリスチャンだったため、創世記1〜2章から御言葉を分かち合い、深呼吸を通して神様から与えられた「いのち」の尊さを親子で確認しました。その後、コアトレーニングや身体づくりを行いながら、神様の創造、いのちや結婚の大切さ、そして福音について自然に分かち合うことができました。親子が一緒に身体を動かし、笑顔があふれ、絆が深められる時間となりました。最後はサッカーを楽しみ、日本宣教とスポーツ宣教のために祈っていただきました。

5. 父との時間
「働き」よりも「存在」と「関係」



今回の韓国訪問では、スポーツ宣教だけではなく、家族との関係についても大きな恵みをいただきました。日本に来てから十数年、私は親子関係の回復に取り組んできました。その歩みの中で、神様から、「あなたが不満に思っている父と母も、わたしが愛する子どもなんだ。だからあなたも愛してくれないか。」と語られているような経験をしました。父と母の存在を愛し、大切にすることを学び、約20年を経た今、父にその愛を伝えることができるようになりました。今回、釜山へ向かう際には父を誘い、二人で「メンズタイム」を持ちました。何か特別なことをするのではなく、ただ一緒に過ごし、お互いの存在を喜ぶ。そして、私が主に仕えている姿を父に見てもらうことができました。これまで主が私を養い、育ててくださったことを、父にも感じてもらえたのではないかと思います。また、出発前には、私が大切にしている日本の親友たちを父に紹介することもできました。この回復の旅路には、多くの人が寄り添ってくれました。働きの成功よりも、神の家族として生きること。家庭が回復していくこと。その大切さを自分自身が体験したからこそ、これからも伝えていきたいと思います。



6. スヨンロ教会
「神の家族」との再会



釜山のスヨンロ教会を2年ぶりに訪問し、神の家族との再会に恵まれました。2年ぶりとは思えないほど自然な交わりの中で、これまで家族が経験した試練と、その中で主が御言葉と聖霊によって励まし、十字架の勝利へと導いてくださったことを証ししました。「本当に自由になりましたね。幸せと喜びがあふれています。」その言葉を通して、神様の回復の御業を共に喜ぶことができました。翌日は日本語礼拝で宣教報告とメッセージをさせていただきました。神様は私たちの弱さを受け止め、親しく語りかけながら召しへと導いてくださるお方であり、肩書きではなく、神の子としてアバ父を喜ぶ者へと造り変えてくださることを分かち合いました。礼拝後には健康体操を行い、創世記2章7節から神の息を覚えながら深呼吸し、身体をもって神様を礼拝する時間を持ちました。今回の奉仕を通して、神様が与えてくださる祝福は、「存在」と「関係」の祝福でもあることを深く実感しました。



7. オンヌリ教会スポーツ宣教チーム
これまでのつながりが、次の宣教へ



母教会であるソウル・オンヌリ教会のスポーツ宣教チーム定期集会にも招いていただき、日本でのスポーツ宣教について分かち合う機会が与えられました。久しぶりに再会した方々や、祖父が生前同じ共同体で親しく交わっていた方々からも、温かい励ましと祈りをいただきました。自分一人で始めた働きではなく、これまで多くの人に祈られ、支えられ、育てられてきた歩みの先に、今の日本での働きがあることを改めて覚えました。神様は、人と人との関係を用いて次の世代へ、そして次の宣教へと働きをつないでくださいます。

8. 良き隣人教会
教会全体で宣教を支える





良き隣人教会では、教会創立38周年記念礼拝に参加し、日本・フィリピン・ベトナムへ派遣される短期宣教チームのための派遣式にも参加しました。それぞれの宣教地の言葉で賛美をし、教会全体で祈りをもって宣教チームを送り出す姿から、大きな励ましを受けました。午後には青年礼拝でメッセージをさせていただき、日本でのアスリートチャーチと地域教会との歩み、そして「神が共におられる」という約束について分かち合いました。多くの青年たちが御言葉に心を動かされ、涙を流しながら応答する姿を見ることができ、主が一人ひとりの心に触れてくださっていることを感じ、感謝でした。

10. オンヌリ教会日本語礼拝
「強くあれ」― 本当の強さとは





韓国オンヌリ教会日本語礼拝部で主日礼拝のメッセージと午後のレクチャーを担当させていただきました。ヨシュア記1章9節の「ハザーク(強くあれ)」という御言葉から、ヨシュアの強さは自分自身の力ではなく、「主が共におられる」ことにあると分かち合いました。また、「ハザーク」には「強くする」「治療する」「助ける」「修繕する」「強化する」という意味があります。主は私たちをただ強くするだけではなく、傷ついた存在を回復し、助け、修繕し、もう一度立ち上がらせてくださるお方です。そして、その回復された人生そのものを、神様への礼拝として用いてくださいます。午後には食事や運動についてのレクチャーを行い、希望者と一緒に漢江をウォーキング＆ランニングしました。暑さの厳しい日でしたが、天候も守られ、安全に身体を動かしながら、喜びの交わりを持つことができました。

9. スポーツの専門性を用いて仕える
「身体を育む」ことから「生き方を育む」ことへ



今回、韓国で多くのスターのボディメイクを手がけるトレーナー、ジョン・ジュホさんともお会いしました。スポーツミニストリーや日韓の次世代育成について語り合い、「神様から与えられた身体を育み、生き方そのものを礼拝としてささげる」という思いを共有することができました。スポーツ選手だけではなく、コーチ、トレーナー、専門職など、スポーツに関わる一人ひとりがキリストの弟子として育てられ、遣わされていく。これからのアスリートチャーチのミッションセンターのビジョンにもつながる大切な出会いとなりました。

11. 国境を越えて広がる「神の家族」

今回の韓国ミッショントリップを通して、改めて感じたことがあります。それは、私たちの宣教は「働き」をつくることだけではなく、「関係」を築いていくことなのだということです。

仁川では、一人ひとりの選手と向き合いました。
河南では、親子と共に身体を動かしました。
釜山では、2年ぶりに神の家族と再会しました。
ソウルでは、これまで私を育ててくれた人々と再び交わり、日本での働きを分かち合いました。
そして韓国各地で、新たな仲間との出会いも与えられました。
また、今回の旅では、父との関係の回復という、宣教活動だけでは見ることのできない神様の御業も体験しました。

働きよりも、存在。
成功よりも、関係。
人数よりも、一人ひとり。

神様は、私たちをまず「神の子」として愛し、育て、その存在そのものを祝福してくださいます。
そして、その回復された存在を通して、家族へ、地域へ、教会へ、スポーツの現場へ、そして世界へと愛を流してくださるのだと思います。
韓国で与えられた一つひとつの出会いを大切に育てながら、これからも日本でのアスリートチャーチの働きを進めていきたいと思います。

スポーツを通して出会い、
出会いを通して関係を築き、
関係を通して神様の愛を届ける。

そして、日本と韓国、教会と教会、スポーツと地域がつながり、共にキリストのからだとして仕えていく。
その歩みを、これからも主に委ねていきたいと思います。

★社会福祉法人プレイズザロード 職員研修(岩手県滝沢市)-7/17

日本ルーテル同胞教団ハレルヤチャペル滝沢が運営する社会福祉法人プレイズザロードの職員研修を担当させていただきました。今回は第一弾として、「まずは皆さんと仲良くなること」をテーマに、健康体操を通して心と体をほぐしながら、御言葉を分かち合う時間を持ちました。新しいチャレンジということもあり少し緊張していましたが、職員の皆さんが終始明るい笑顔で参加してくださり、私たち自身もとても楽しく、恵まれた時間となりました。



●れい初めての表彰台



思い返せば2年前、北海道へ向かう途中、大雨の影響でフェリーが欠航となり、急遽ハレルヤチャペルで宿泊させていただいたことが、この教会との最初の出会いでした。あの時の出会いが、このように共に主の働きに仕えるご縁へとつながったことを思うと、神様のご計画の素晴らしさを改めて感じます。このつながりを大切にしながら、スポーツと健康を通して福音を届ける働きがさらに広がっていくことを期待しています。

北海道ミッショントリップ

―スポーツを通して地域と教会をつなぎ、一人ひとりに仕える―
2026年8月5日～8月15日

1. 北海道ミッショントリップを終えて

このたび、北海道で10日間にわたり、札幌南福音キリスト教会を中心に、UL316(ダウン症の子どもたちに無償の愛を届ける働き)の皆さんと共に、スポーツを通した宣教活動に取り組む機会が与えられました。

2. Cafe Olive 健康体操教室





毎月、スポーツや交わりを通して地域の方々が集う「Cafe Olive」で健康体操教室を行いました。ノンクリスチャンの方や初めて教会に来られた方を含め、約20名が参加。体操の中で聖書の御言葉を分かち合い、その後には救いの証しをさせていただきました。カフェタイムでは、「なぜ盛岡に住むことを決めたのですか？」など、たくさんの質問をいただき、自然な会話の中で神様の恵みや導きを証しする機会となりました。健康体操を通して地域の方々とつながり、福音を分かち合う尊い時間となりました。

3. 中学生の陸上教室
「たった一人」ではなく「この一人のために」





今回、外部から参加してくれた中学生は一人でした。「一人だからこそ、この一人のために喜びをもって仕えよう」と、みんなで祈って教室をスタート。その中学生に翌日の教会のバーベキューにも声をかけたところ、翌日の小学生かけっこ教室にも参加し、さらに友達も誘ってバーベキューに来てくれました。二人とも教会は初めてでしたが、教会の子どもたちともすぐに仲良くなり、一緒に遊ぶ姿を見ることができました。「たった一人」ではなく、「この一人のために」。人数ではなく、一人ひとりとの出会いを大切にすることの大切さを教えられました。

4. 小学生のかけっこ教室
子どもたちの成長



教会に通っている子どもたちがお友達を誘って参加してくれて、みんなで楽しく走ることができました。特に嬉しかったのは、教会の子どもたちの成長です。以前はお母さんの後ろに隠れていた子が、自信をもって走り、進んでお手伝いをする姿を見ることができました。スポーツを通して、走る技術だけでなく、自信や思いやりも育まれていることを感じました。最後には保護者の方々に「スポーツバイブル」をお渡しすることもできました。



5. ダウン症キッズのためのスポーツデー UL316との協働

今年で4回目となる、ダウン症の子どもたちとご家族のためのスポーツデーを開催しました。シェルボーンムーブメント、ダンス、パラシュート、障害物チャレンジ、玉入れ、サイクロンなど、さまざまなプログラムを楽しみました。一人ひとりの「できた！」や「いいところ」をみんなで見つけ、最後には全員にメダルをプレゼント。札幌南福音キリスト教会の小中学生もスタッフとして参加し、子どもたちと一緒に遊んでくれました。その間、お母さんたちもゆっくりコーヒーを飲みながら交わりの時間を持つことができました。子どもたちだけでなく、ご家族にとっても「つながり」と「安心」を感じられる大切な時間となりました。






6. 「最も小さい者たちの一人に」



スポーツデーでは、UL316代表の船渡川鈴子さんから、神様から与えられた3つのことについてお話を伺いました。

①「生まれてきてくれてありがとう」
②「これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、
　わたしにしたのです。」― マタイの福音書25章40節
③「この子たちに仕事を与えなさい」

ダウン症の子どもたちを育てることは神様に仕えることでもあるというメッセージ、そして将来、子どもたちが働くことのできる場所をつくりたいというUL316のビジョンを伺いました。スポーツを通して「できた」を見つけるだけでなく、その先にある人生や社会とのつながりまで考える大切な機会となりました。

7.「神の家族」であることを実感したミッショントリップ




今回の北海道ミッショントリップを通して、スポーツが人と人、地域と教会、教会と教会をつなぐ大きな架け橋となることを改めて実感しました。約10日間の滞在の中で、地域の方々、子どもたち、障がいのある子どもたちとご家族、そして教会の皆さんとの多くの出会いが与えられました。また、札幌南福音キリスト教会やUL316の交わりを通して、「アスリートチャーチが来てくれて、家族であることを表してくださり感謝します。」そう言っていただけたことが、何よりも嬉しいことでした。活動を共にするだけでなく、祈り、食事をし、語り合い、支え合う中で、 神様がつないでくださる「神の家族」の恵みを深く感じました。これからも、北海道で与えられた出会いを大切に育てながら、「スポーツを通して出会い、出会いを通して関係を築き、関係を通して神様の愛を届ける」歩みを続けていきたいと思います。

★函館のぞみ福音キリスト教会 |(北海道函館市)-8/15～17

4年ぶりに訪問し、礼拝では宣教について証しをさせていただきました。礼拝後は、高橋先生のお子さんとふわふわトランポリンで遊び、すっかり仲良しに。そのかたわらで、トレーナーでもある奥さまの万紀子さんには、体の使い方をチェックしていただきました。さらに夕食にもご招待いただき、話は尽きず、楽しいひとときを過ごしました。万紀子さんには、これからスポーツ選手のカウンセリングやボディケアなどの分野でも、ぜひ関わっていただけたらと思っています。





★サンゴク・チャンビッ教会(韓国・仁川)-8/30



朴先生とは、2023年にカンボジアで開催された「東アジアスポーツミニストリーカンファレンス」で初めてお会いして以来、親交を深めてきました。国は違っても、互いに励まし合い、祈り合える仲間がいることに心から感謝します。今回は、朴先生が牧会されている教会で『日本宣教報告』と『聖書的健康体操』の時間を持たせていただきました。御言葉を心に受け取りながら体を動かし、心と体の両方が回復されていくひととき。私たちの体も、神様が与えてくださった大切な宝物なのだと、改めて実感する時間となりました。国境を越えて、神の家族として共に歩むことができることに感謝です。これからも、日本の良さ、韓国の良さ、それぞれの賜物を生かしながら、日韓で共に取り組めることを見つけ、神様のために協力していきたいと思います。

★サンスン(常勝)教会(韓国・高陽)-9/2



ハ・ヘヨン先生とは、約1年前に共通の友人を通して出会って以来、日本宣教のために祈り、応援してくださっていました。先生は、実家から車で約15分ほどの場所にある、軍部隊のための教会で仕えておられます。韓国に来るたびに「今度こそお会いしたい」と思っていたのですが、なかなか予定が合わず。ところが今回、連絡をしたところ、急遽、水曜礼拝でメッセージをさせていただくことになりました。これまで軍人の若者たちにメッセージをしたことはありませんでしたが、今回は、競技生活を通してアバ父が教えてくださったことを分かち合いました。競技者として「勝つこと」「結果を出すこと」に価値を置いていた自分が、神様の栄光とは何なのかを少しずつ教えられてきた証しをお話ししました。軍隊という環境の中でも信仰を守り、主と共に歩もうとしている一人ひとりの若者たちに、主ご自身が触れてくださったことを感謝します。久しぶりの再会と、新しい出会い。そして、一人ひとりを祝福する時間を備えてくださった主に心から感謝します。

★宮古めぐみキリスト教会(岩手県宮古市)-9/14



盛岡から宮古へ、ミッショントリップへ行ってきました。今回は、健康体操を一緒に行い、その自然な流れの中で証しをする機会も与えられ、楽しい交わりのひとときとなりました。さらに、盛岡の方と宮古の方に共通の知り合いがいることも分かり、「今度ぜひ一緒にお誘いしよう！」と話が盛り上がりました。神様が人と人とのつながりを用いて、新しい出会いを備えてくださっていることを感じます。デイビッド先生、ともさんとも海鮮丼をいただきながら、ゆっくりと語り合うことができました。「ミッショントリップ」というと、若い世代が参加するイメージがあるかもしれません。でも、宣教は若者だけのものではありません。ご年配の方々にも宣教の働きに一緒に加わっていただき、世代を越えて、共に神様の御業を体験していく。今後も盛岡のご年配の方々を宮古へお連れし、継続的にミッショントリップを行っていく予定です。盛岡と宮古をつなぎ、神様の愛を届けていきます。

アスリートチャーチの今後の予定

［10月］
9日金曜日　明治学院高等学校　特別礼拝(東京都)
12日月曜日　北東北カバレッジ・ラウンドテーブル(秋田県大館市)
14日水曜日　ほっとかふぇ(岩手県盛岡市)
26日月曜日　Athlete Worship(オンライン)

祈祷課題

・10月・11月に韓国から来られるミッションチームとの出会いや交わりが祝福され、新しいつながりが与えられますように。
・アスリートチャーチの次のステップに向け、主の御声を聞き、祈りながら備えることができますように。
・家族と働きのすべてが主に守られ、主の導きの中を歩めますように。

皆さまのお祈りとご支援が、御国の働きの前進に大きな力となっています。主と共に走り続けましょう！

アスリートチャーチ
代表：金ジングク
TEL ： 090-6376-8231
HP ： http://www.athlete-church.com
EMAIL ： athlete.church@gmail.com

【支援先】

［ ゆうちょ銀行 ］
記号　10960
番号　18547111

［ 他金融機関からの振込の場合 ］
店名　〇九八(ゼロキュウハチ)
預金種目　普通預金
口座番号　1854711
キム　ジングク

［ 三菱UFJ銀行 三好支店 ］
店番418
普通
0067830
キム　ジングク

© 2026 Athlete Church. All rights reserved.　＊商用目的での利用、内容の改変、無断転載など、著作権者の権利を侵害する一切の行為を固く禁じます。